

# 山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用  
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援  
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670700525
法人名	合資会社 喜助
事業所名	グループホーム なずな
訪問調査日	平成 20年 10月 15日
評価確定日	平成 20年 11月 10日
評価機関名	株式会社 福祉工房

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0670700525		
法人名	合資会社 喜助		
事業所名	グループホーム なずな		
所在地 (電話番号)	山形県鶴岡市友江町2番21号 (電話) 0235(38)1750		
評価機関名	株式会社 福祉工房		
所在地	宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘6丁目149		
訪問調査日	平成20年10月15日	評価確定日	平成20年11月10日

## 【情報提供票より】(平成20年 9月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算 7人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設/ <del>単独</del>	新築/ <del>改築</del>
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000円(5畳) 27,000円(6畳)	その他の経費(月額)	11,000 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) ( 100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/ <del>無</del>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		880 円	

### (4) 利用者の概要(平成20年 9月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	68 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	おかべ内科胃腸科医院、桜井歯科医院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の思いや意向を出来るだけ把握するように努めており、これに基づいたケアを実践している。利用者の健康状態を日々細かくチェックして、状況に応じたケアを実施している。職員に対しての認知症等に関する研修、又、介護福祉士資格取得も熱心に行われており、地域とも密接に連携している。利用者が主役で安心して、快適に生活できるように全体で取り組んでいる事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)  前回外部評価での指摘事項はありませんでした。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 月1度、3ヶ月にわたり評価に関する研修を全職員と行い、評価の意義を十分理解してもらい、この中での意見をもとに研修委員会で作成し、それぞれのスタッフが確認するという作成過程をもった。スタッフは研修の過程において業務の見直しにつながる気づきも発生している。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)  行政、地区の民生委員、家族、介護相談員、地域住民代表の出席を貰い、年間スケジュールを作成し、時期及び内容を設定し行っている。特に防災に関して、計画、実施、反省の面からの意見を貰い、この面での充実を図っている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)  年4回発行の「きすけ新聞」により事業所全体の状況を報告しているが、利用者個々については、毎月ケアプランの実施状況、生活の様子、健康状態、金銭管理等を非常に詳細に報告している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  地域とは積極的にかかわりを持つようしており、所属する町内会には総会に出席し、依頼事項があれば依頼し、町内の一員としての認知を受けるようになっている。隣接する隣の町内会にも良好な関係を築いており、運営推進会議への出席も得ている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は「街の中の一軒家」として明確に作成されており、地域とのかかわり、利用者への対応が明確化されている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は業務に着く前に、理念を復唱し、又毎月の研修会でも理念の意義を考えてもらい、日々の業務の中で理念を常に意識してもらうよう努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とは積極的にかかわりを持つようにしており、所属する町内会には総会に出席し、依頼事項があれば依頼し、町内の一員としての認知を受けるようになっている。隣接する隣の町内会にも良好な関係を築いており、運営推進会議への出席も得ている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月一度、3ヶ月に渡り評価に関する研修を全職員で行い、評価の意義を十分理解してもらい、この中での意見をもとに研修委員会で作成し、それぞれの職員が確認するという作成過程をもった。職員は研修の過程において業務の見直しにつながる気づきも発生している。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	行政、地区の民生委員、家族、介護相談員、地域住民代表の出席を貰い、年間スケジュールを作成し、時期及び内容を設定し行っている。特に防災に関して、計画、実施、反省の面からの意見を貰い、この面での充実を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	見守り支援員養成の為の実習受け入れや介護相談員の受け入れ、ケースワーカーの訪問等を通じ、鶴岡市の担当者と連携しサービスの質の向上を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回発行の「きすけ新聞」によりホーム全体の状況を報告しているが、利用者個々については、毎月ケアプランの実施状況、生活の様子、健康状態、金銭管理等を非常に詳細に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情はホームの苦情窓口だけでなく、外部の介護相談員等にも相談できることを利用者の家族に周知させており、出された意見・苦情はスタッフ会議を通し全職員へ浸透させ、統一の取れた対応が取れるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期異動を行っている。利用者個々の担当は決めているものの、基本的にはユニット全体で利用者との馴染みの関係を築くようにしており、利用者がダメージを受けないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会を設置しスタッフの研修プログラム等についての検討をおこなっている。採用時の研修を始め、毎月各職員が講師となり認知症等に関して内部の研修を行っている。更に、経験に応じ介護福祉士、介護支援専門員の資格取得に積極的にチャレンジさせている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山形県グループホーム協議会、鶴岡市介護保険サービス部会に所属し、情報の交換、研修、交換実習等を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<b>【小規模多機能型居宅介護のみ】</b> ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の能力や過去の経験を考え、クリーニング、裁縫、献立や洗い物といったそれぞれの役割を確保し、生活の主役となってもらうようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的にはセンター方式を採用しているが、独自の工夫を加え、ADL面だけではなく、利用者本人の思いや意向を出来るだけ汲み取る努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者個々のケアプランはユニットごとにファイルされ、ケアプランと利用者個々の日々の状況をチェックし、常に職員全員が評価が行えるようになっていると同時に、毎月スタッフ会議において職員の意見と関り方等を検討している。又、さわやか記録(排泄記録)も毎日記録し、より適切な支援の為の役に立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは年2回であるが、日々のケアプランと現状との関係をチェックし、毎月ケアプランの見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	ホームの協力医院である「おかべ内科胃腸科医院」か ら2週間に一回往診を受けている。病院への通院時に は本人や家族の希望に応じて介助を行っている。家族 同行の場合でも、ノートに情報を記載し、適切に受診で きるよう努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	指針を作成し、重要事項説明書に添付し、事前に十分 に家族と話し合いを行い確認を得ている。状況の変化 に応じ、その都度家族と話し合いを持つようにもしてい る。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	毎月のスタッフ研修時に主任と職員が確認すると同時 に、自己評価作成時の研修においても確認を行ってい る。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望にあわせ可能な限り対応している。消極 的な利用者には声掛けを行い、利用者の希望を聞きだ すよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りから、買い物、調理、片付けに関して利用者と出来るだけ一緒に行い、利用者の力を引き出すよう努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は2日に1回、午後3時から5時前後までとしているが、自立している利用者の希望により毎日でも入浴でき、又時間帯も柔軟に対応している。汗をかいた時にはシャワー浴ができるように対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来ることをケアプランにあげて、結果を毎月確認している。利用者ごとに役割を持ち、毎月チェックを行い、レベルアップするよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の状況に応じて、買い物や散歩に出かけるようにしている。外出願望の強い利用者にも職員が交代で対応している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	開所当初より日中玄関には鍵をかけないケアを行っている。外出願望の強い利用者に関しても、願望の理由について検討をして、声掛けを行いこれに対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施しており、夜間想定訓練には地元の方の協力を得て実施している。これ以外に初期消火、心肺蘇生訓練等も適宜行われている。電話連絡網、職員の役割分担も明確になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の摂取量をチェックし、かかりつけ医と相談しながら体力を確保する工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理の匂い、茶碗を洗う音、テレビの音等生活感が感じられ、玄関には季節の花を飾って、季節感を出している。中庭にも季節が感じられるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの物、写真や家具等、利用者個々の希望に応じて、置けるような配慮がされている。		